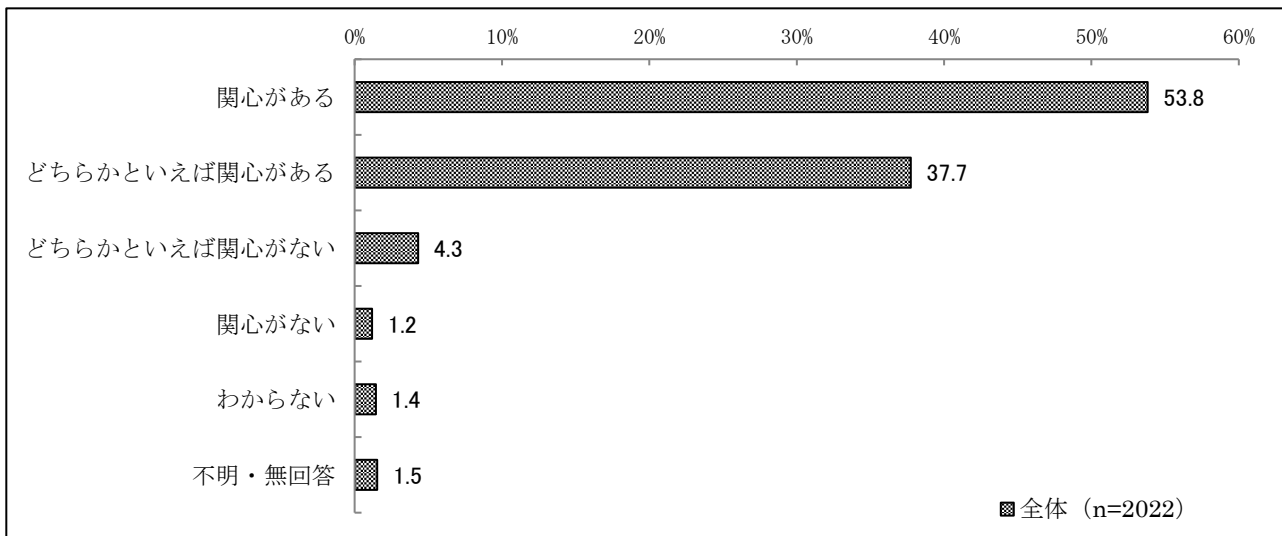


3. 食の安心・安全について

(1) 「食の安全」への関心

問9 あなたは、食の安全に関心がありますか。
(○は1つだけ)



— 『関心がある』が約9割 —

【全体結果】

「関心がある」(53.8%)で5割を超えた。「どちらかといえば関心がある」(37.7%)を合わせた『関心がある』(91.5%)は、9割を超えた。「どちらかといえば関心がない」(4.3%)、「関心がない」(1.2%)を合わせた『関心がない』(5.5%)は、1割に満たなかった。

【属性別結果】(図3-1参照)

① 地区別

いずれの区も、『関心がある』は、9割前後の割合となった。

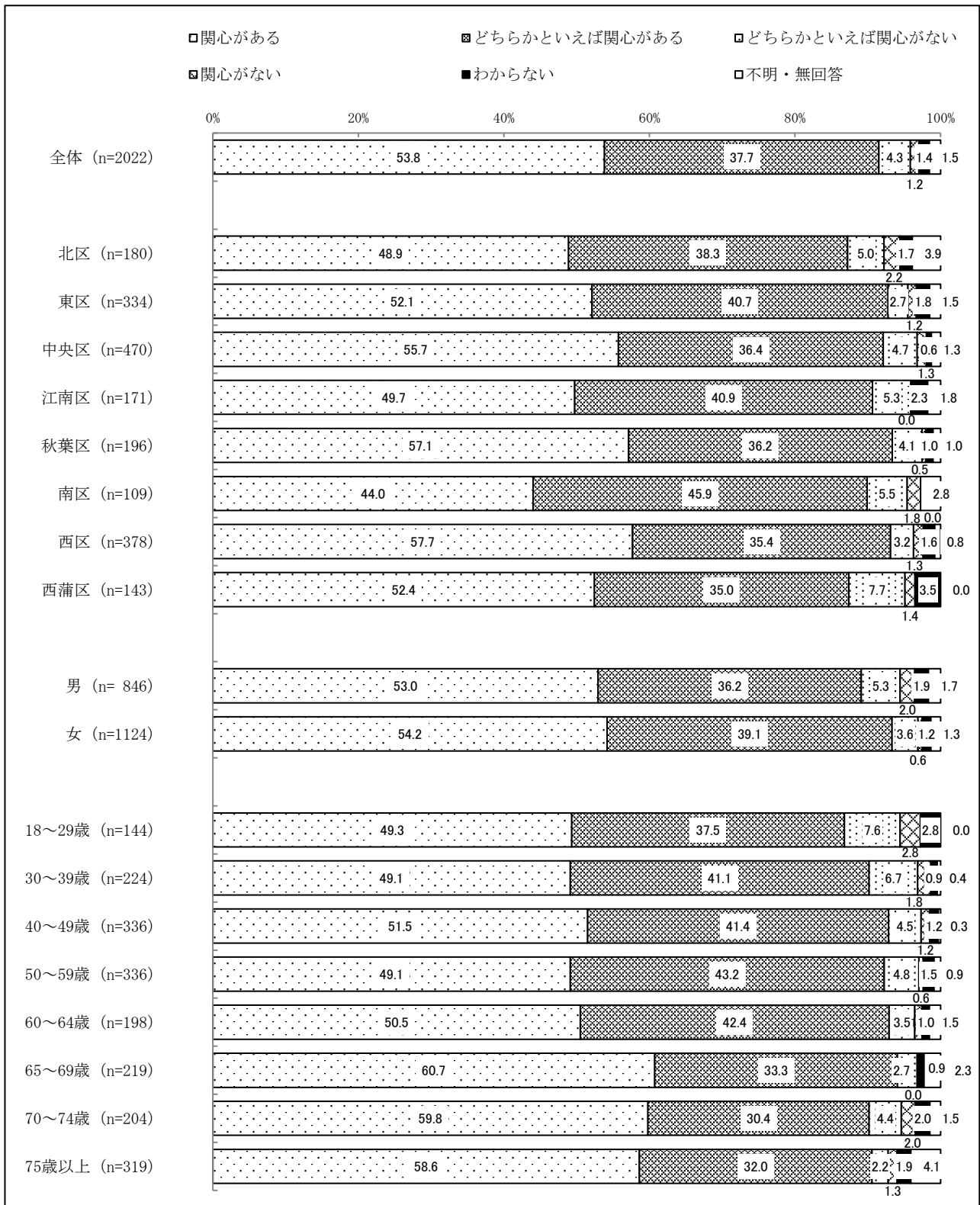
② 性別

『関心がある』の割合は、男性(89.1%)と比較して、女性(93.3%)で割合が高い。

③ 年齢別

『関心がある』の割合は、18~29歳(86.8%)で最も低く、唯一9割に満たなかった。

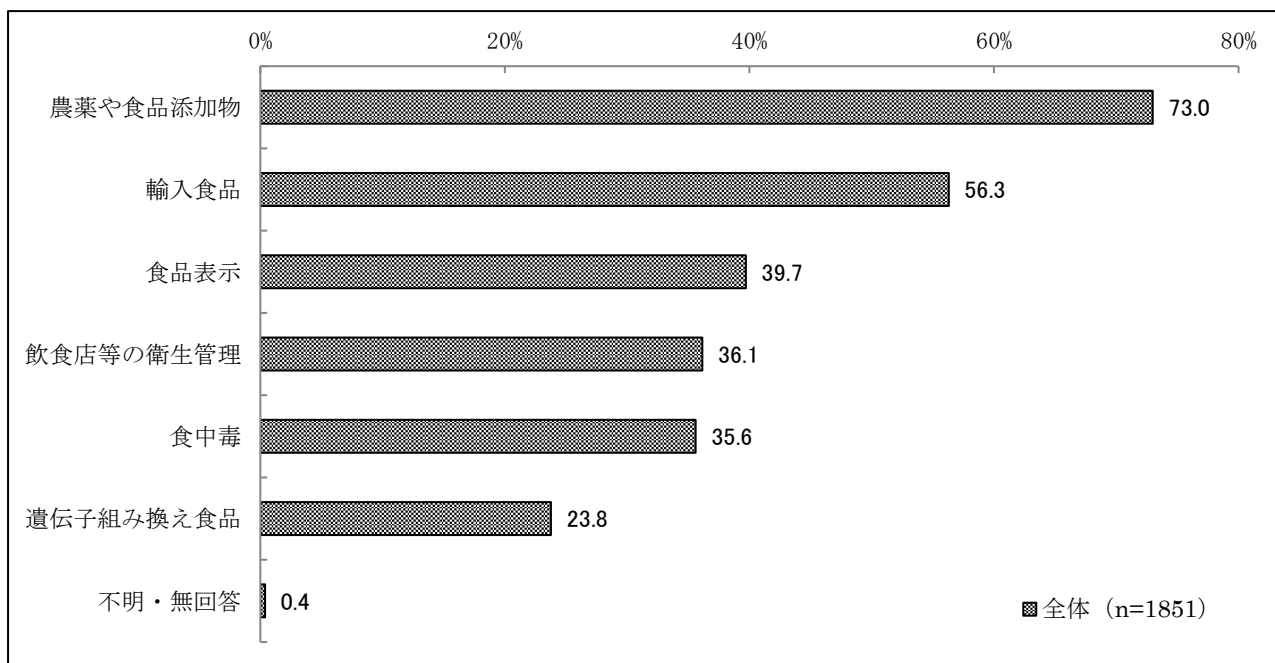
図 3-1 「食の安全」への関心（地区別/性別/年齢別）



(2) 「食の安全」について関心があること

(問9で「1」「2」(関心がある、どちらかといえば関心がある)と答えた方のみ)

問10 どのようなことに関心がありますか。(〇は3つまで)



— 「農薬や食品添加物」が7割以上 —

【全体結果】

「農薬や食品添加物」(73.0%)が7割を超え、割合が最も高い。次いで「輸入食品」(56.3%)、「食品表示」(39.7%)、「飲食店等の衛生管理」(36.1%)、「食中毒」(35.6%)の順となった。

【属性別結果】(図3-2参照)

① 地区別

「農薬や食品添加物」は、全ての区で割合が最も高く、中央区(76.9%)で最も高い。「輸入食品」は、南区(65.3%)、西蒲区(64.0%)で割合がやや高い。

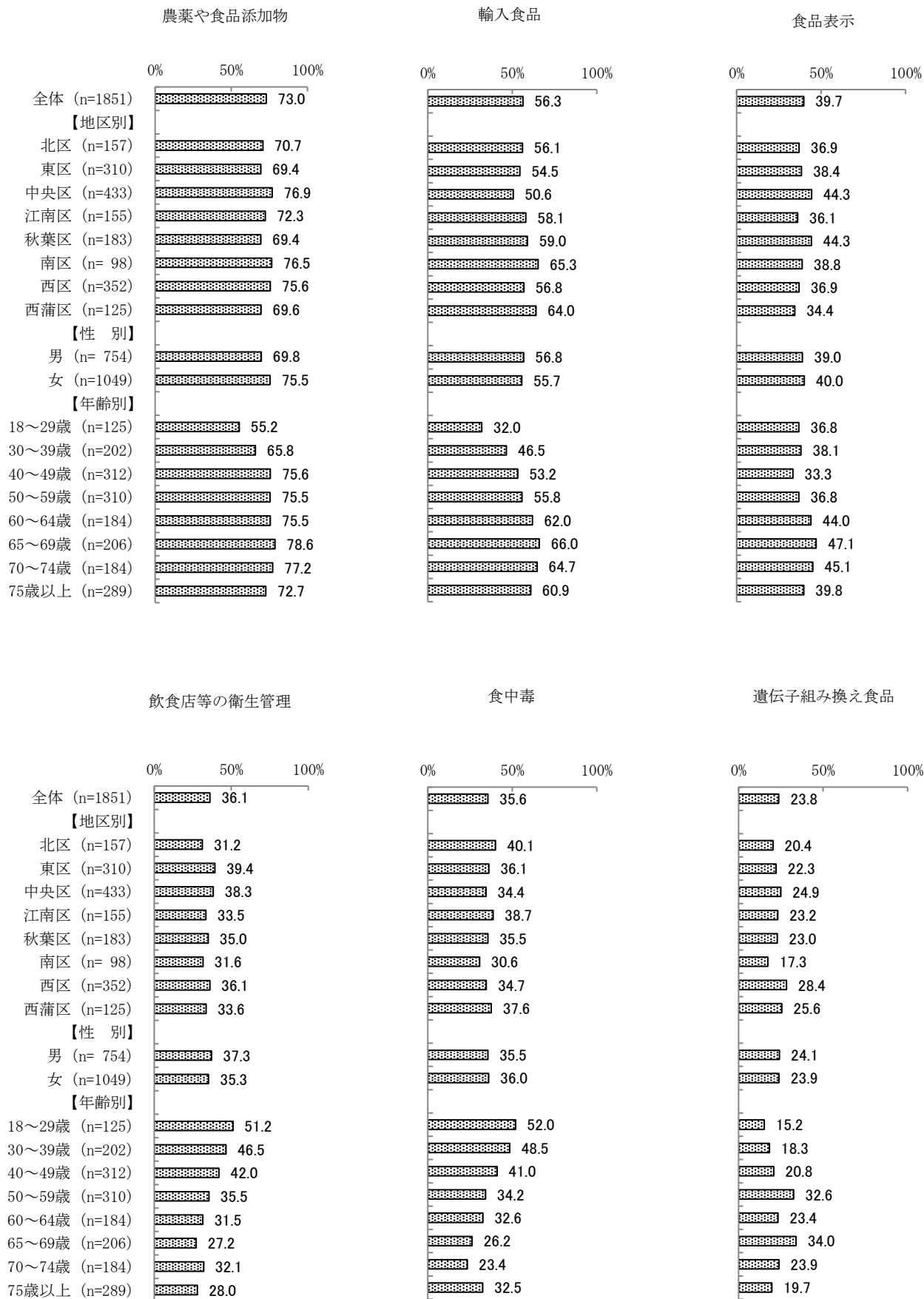
② 性別

「農薬や食品添加物」は、男性(69.8%)と比較して、女性(75.5%)で割合が高い。他の項目では男女での差は小さい。

③ 年齢別

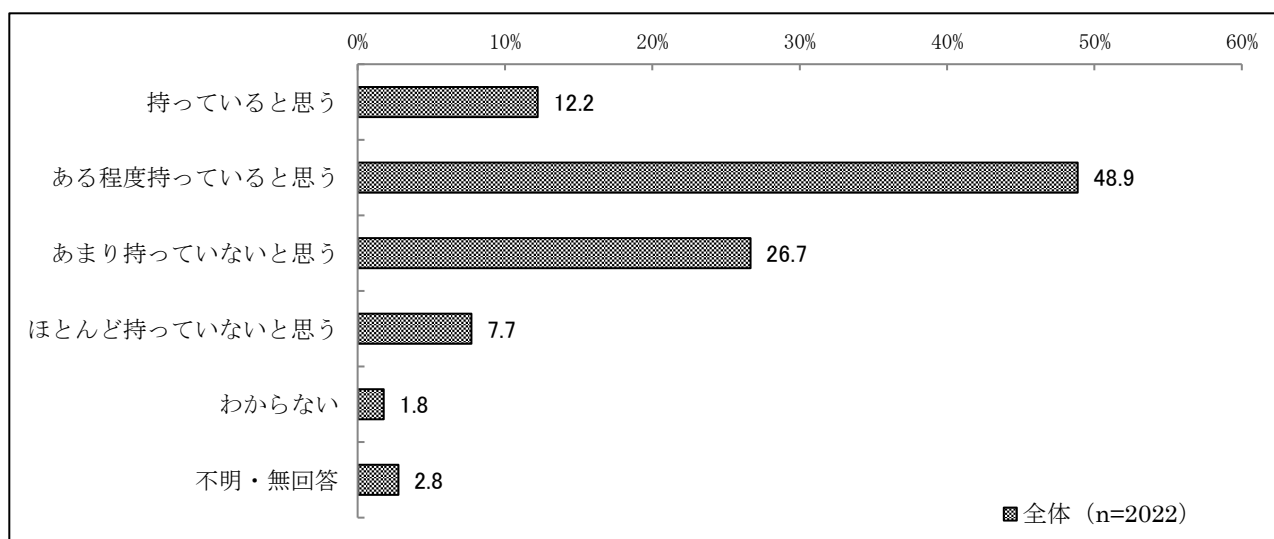
「農薬や食品添加物」「輸入食品」は、若年層ほど割合が低い。逆に「飲食店等の衛生管理」「食中毒」は若年層ほど割合が高い。

図 3-2 「食の安全」について関心があること（地区別/性別/年齢別）



(3) 「食の安全」の知識に関する自己評価

問11 あなたは、食の安全に関してどの程度知識を持っていると思いますか。
(○は1つだけ)



— 知識を『持っていると思う』が6割強 —

【全体結果】

「持っていると思う」(12.2%)、「ある程度持っていると思う」(48.9%)を合わせた『持っている』(61.1%)は、6割を超えた。「あまり持っていないと思う」(26.7%)、「ほとんど持っていないと思う」(7.7%)を合わせた『持っていない』(34.4%)は、3割半ばとなった。

【属性別結果】(図3-3参照)

① 地区別

『持っている』の割合は、西区(64.3%)で最も高く、南区(54.1%)で最も低い。

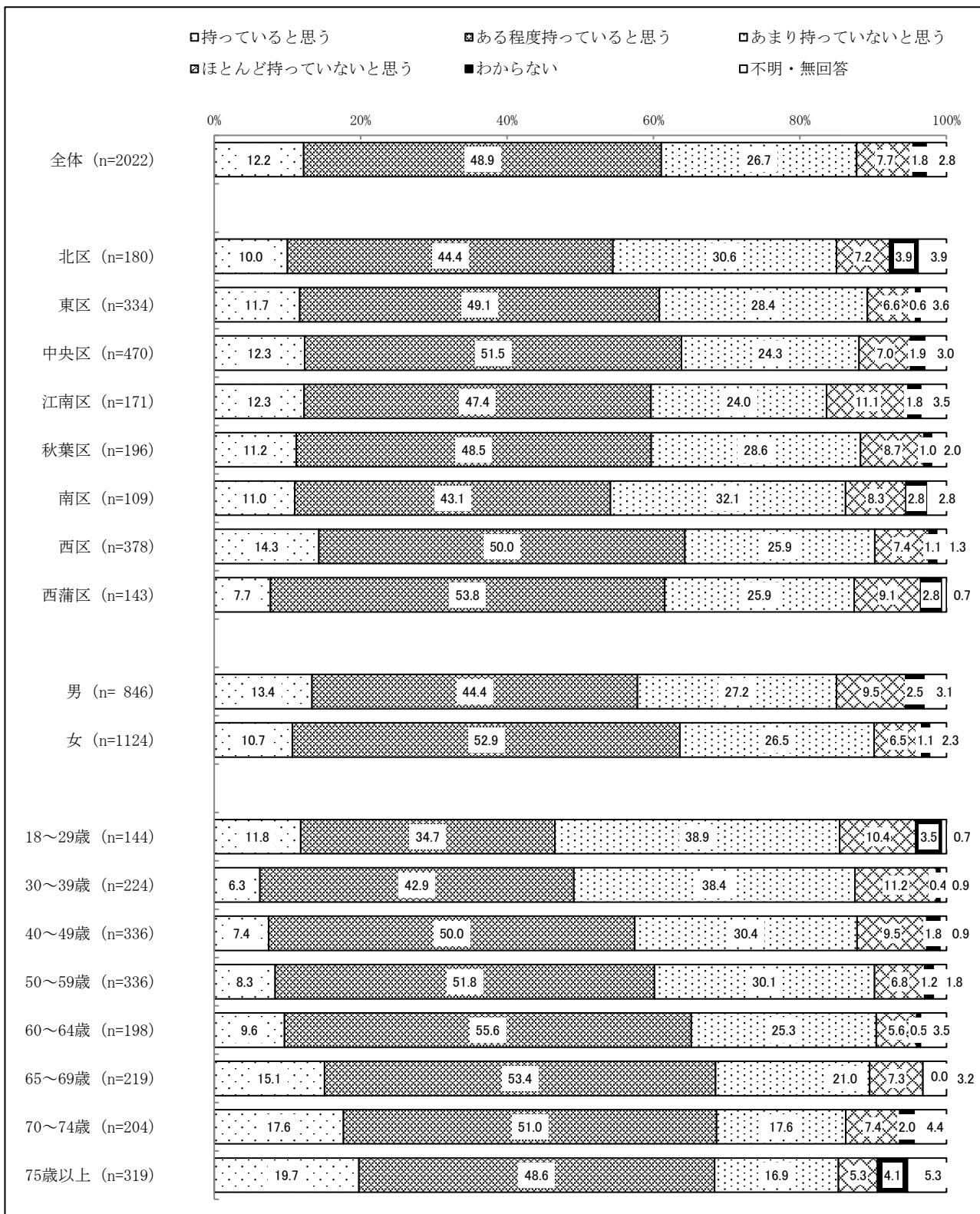
② 性別

『持っている』の割合は、男性(57.8%)と比較して、女性(63.6%)で割合が高い。

③ 年齢別

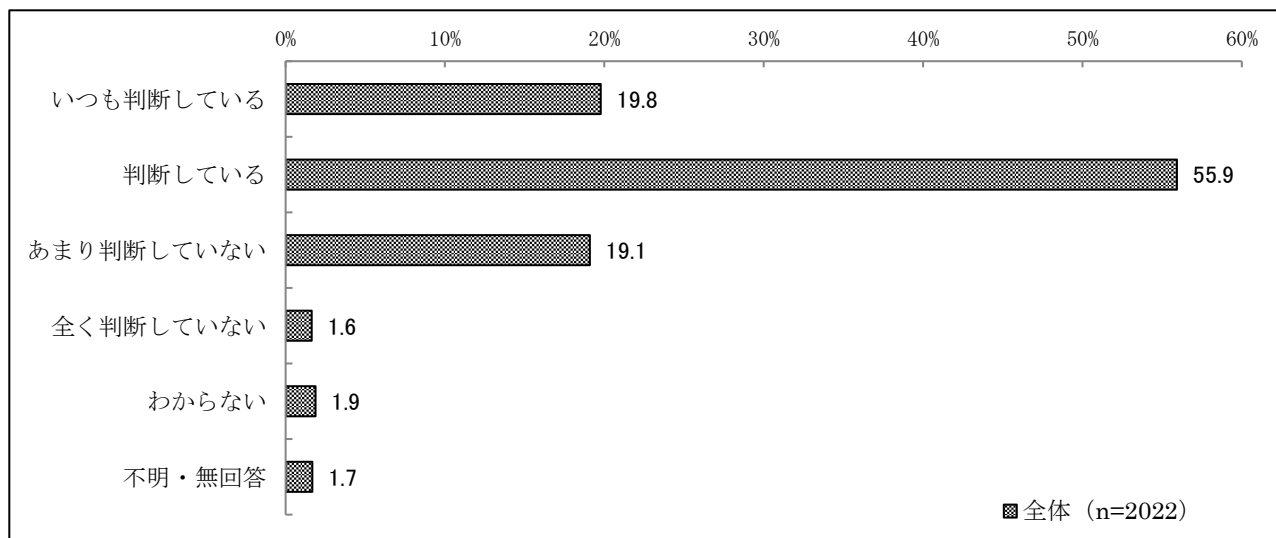
『持っている』の割合は、18～29歳(46.5%)で最も低い。年齢が高いほど割合が高くなる傾向がみられる。

図 3-3 「食の安全」の知識に関する自己評価（地区別/性別/年齢別）



(4) 食品選択等の判断

問12 あなたは、安全な食生活を送るために、自ら食品選択等の判断をしていますか。
(○は1つだけ)



— 『判断している』が7割半ば —

【全体結果】

「いつも判断している」(19.8%)、「判断している」(55.9%)を合わせた『判断している』(75.7%)は、7割半ばとなった。「あまり判断していない」(19.1%)、「全く判断していない」(1.6%)を合わせた『判断していない』(20.7%)は、約2割となった。

【属性別結果】(図3-4参照)

① 地区別

『判断している』の割合は、西区(80.4%)で最も高く、南区(68.8%)で最も低い。

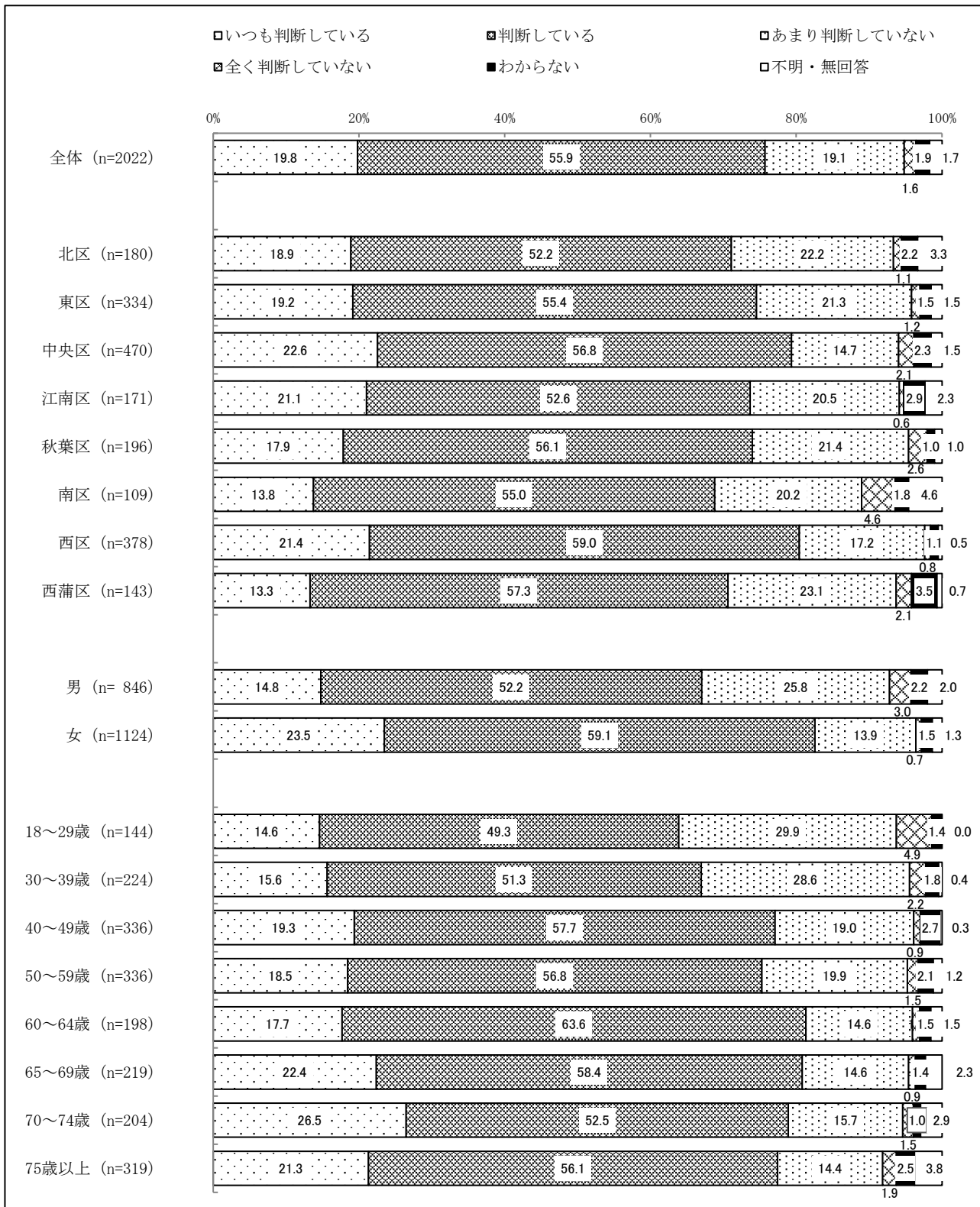
② 性別

『判断している』の割合は、男性(67.0%)と比較して、女性(82.6%)で割合が高い。

③ 年齢別

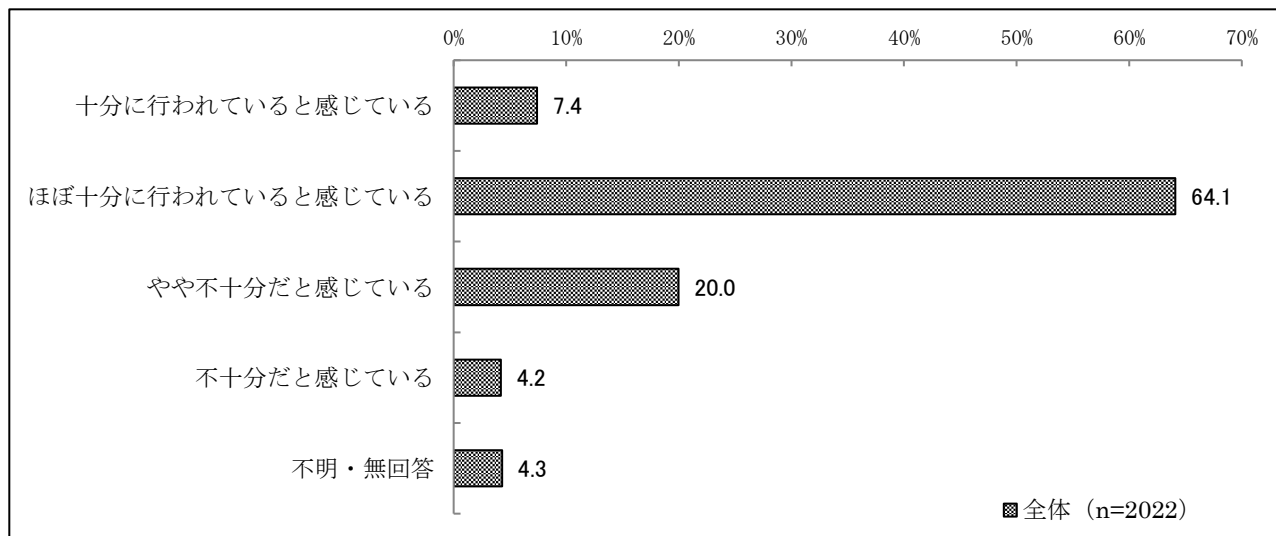
『判断している』の割合は、60~64歳(81.3%)で最も高く、18~29歳(63.9%)で最も低い。

図 3-4 食品選択等の判断（地区別/性別/年齢別）



(5) 新潟市の食の安心・安全への取り組み

問13 新潟市では、「食の安全基本方針」に基づき、下記のような取組を重点的に行っているところですが、あなたは、新潟市における食の安心・安全の確保に対する取り組みが、十分に行われていると感じていますか。一番近いものをお選びください。(〇は1つだけ)



— 『行われていると感じている』が7割を超す —

【全体結果】

「十分に行われていると感じている」(7.4%)、「ほぼ十分に行われていると感じている」(64.1%)を合わせた『行われていると感じている』(71.5%)は、7割を超えた。「やや不十分だと感じている」(20.0%)、「不十分だと感じている」(4.2%)を合わせた『不十分だと感じている』(24.2%)は、2割強となった。

【属性別結果】(図3-5参照)

① 地区別

『行われていると感じている』の割合は、西蒲区(76.9%)、北区(76.7%)でやや高く、南区(64.2%)で最も低い。

② 性別

『行われていると感じている』の割合は、男性(67.6%)と比較して、女性(74.5%)で割合が高い。

③ 年齢別

『行われていると感じている』の割合は、18~29歳(81.3%)で最も高く、唯一8割を超えた。50~59歳(67.6%)で最も低い。

図 3-5 新潟市の食の安心・安全への取り組み（地区別/性別/年齢別）

